

20 東印工組第 212 号
平成 20 年 12 月 3 日

委 員 各 位

東京都印刷工業組合
組 合 運 営 委 員 会
委員長 大久保秋生

第 3 回組合運営委員会報告の件

標記について下記のとおり報告いたします。

記

- 1 . 日 時 平成 20 年 11 月 26 日(水) 15:00 ~ 17:00
- 2 . 場 所 日本印刷会館 5 階会議室
- 3 . 出席者
(本 部)
(事務局)

議事に先立ち大久保委員長、森永副理事長の挨拶が行われ、大久保委員長を議長に議事が進められた。

【議題 1】加入増強キャンペーンについて

事務局が、資料 No.1「平成 20 年度組合員増強運動目標値」の説明をし、続いて、4 社の新規加入があった支部委員が以下意見を述べた。

(有蘭副委員長)

墨田支部として特別な取り組みは行っていないが、相手の方が組合に興味がある、仲間が欲しいと積極的に入ってきていただいた。

(真山委員)

支部員数が多いので、加入も多いが脱退も多くあり、純増 5%は高い目標であると感じている。

検討を受け、大久保委員長が、改選期でない年にパンフレットを送付すれば、準備期間をもっと取れると思う。また、送付の際は挨拶文や支部独自の同封物を入れられるようにしたい。これまでの流れだと、来年はパンフレットを送付しない年にあたるが、2 年後は改選期であり、改選期を避けると 3 年後までパンフレットの送付を待つことになってしまうので、来年度もパンフレットを送付できるか部会で検討を進めたい旨総括した。

【議題2】「組合員の集い」の開催について

事務局が、開催概要及び式次第について説明し、続いて、有菌副委員長が、抽選会の支部賞の渡し方について検討したい旨発言し、各委員が以下意見を述べた。

(大久保委員長)

全支部長に登壇していただいていたほうが良い。

(有菌副委員長)

賞品の一覧表をあらかじめ作成し参加者に配布しておけば、賞品の内容を説明する時間が短縮できる。

(森委員)

盛り上がりを考えると、壇上で賞品説明をしたほうが良い。

検討を受け、大久保委員長が、参加者名簿等に抽選会の賞品が分かるよう、各支部長の紹介文を記載する。賞品を渡す際は、あらかじめ全支部長に登壇しておいていただく旨総括し、続いて、東政連議員の紹介は、乾杯後、党派ごとにまとまり全議員に登壇していただき、各党派1名の代表者が3分程度で各党の議員の紹介をしていただくことを確認した。

2. アンケートについて

事務局が、資料 No.3「「組合員の集い」アンケート項目(案)」を説明し、続いて、大久保委員長が、全体を通して満足か不満足かについて何っても良いと思うので、問いを加える旨総括した。

3. 次年度以降の開催形式について

各委員が以下意見を述べた。

(藤井副委員長)

城南支部では「組合員の集い」の形式で良いという評価だ。

(井上委員)

「組合員の集い」が良い。開催時期については、2月がスマートだ。メーカー・ベンダーは支部毎に担当者があり、1社で10数人来る恐れもあり反対だ。メーカー・ベンダーの負担になることも考えられる。

(小川委員)

1月は各支部の新年会があり、時期的には2月が良いと思う。開催形式は現在のままで良い。メーカー・ベンダーはいないほうが、組合員が親密になり良いと思う。

(佐々木委員)

支部員の中には昔の新年会が良かったという声もある。

(芝原委員)

名称は今のままで良いと思う。メーカー・ベンダーも入れないほうが良い。開催時期は、1月は各支部で新年会があり、顔を合わせる機会も多いので、10月か11月ごろが良い。

(高山委員)

1月は新年会が多く開催されているから、「組合員の集い」が企画されたのではなかったか。メーカー・ベンダーは呼ばずに、組合員は誰でも参加出来るという雰囲気作りが大切だ。開催時期は、10月、11月、2月が良い。

(森委員)

支部では、「組合員の集い」が良いという評価だ。メーカー・ベンダーを呼ぶかどうかについては、呼んだほうが良いという意見も聞いている。

(草間委員)

組合員のために開催しているということを経年アナウンスすることで、この催しを定着させることができるのではないか。主役は組合員であるということが中心にあれば、メーカー・ベンダーは呼んでも呼ばなくてもどちらでも良い。

(松村委員)

メーカー・ベンダーを入れるなら、名称は変えたほうが良いが、メーカー・ベンダーを入れることには違和感がある。組合員の連帯がこの催しの趣旨ではないか。

支部全体としては「組合員の集い」が支持されている。「組合員の集い」にしてから、皆で楽しもう、これからの問題について皆で考えようという雰囲気になり、参加者が増えた。開催時期は2月が良いように思う。

(真山委員)

江東支部でも、「組合員の集い」で良いというのが執行部の総意だ。開催時期は、加入増強キャンペーンが12月までなので、それ以降のほうが新加入の方を多く招待できて良いと思う。メーカー・ベンダーを呼ぶのは、支部の新年会で良いのではないか。開催場所については、固定したほうが良いとの声もいただいている。

(小沼委員)

上野支部では「組合員の集い」が支持されている。従来は、人数が多すぎる等の理由から評判が良くなかった。メーカー・ベンダーは支部の新年会に参加するので、「組合員の集い」に呼ぶ必要はない。

(吉田委員)

「組合員の集い」の形式で開催するのが良いと思うが、4ブロックでの開催が一巡した区切りの意味で、名称を変えることも考えられる。「組合員の集い」にしてから、出席率が倍になった。今後、賛助会員制度と合わせて検討する必要もあるだろう。

(田中委員)

「組合員の集い」の形式で開催するのが良い。メーカー・ベンダーを呼ぶことについては、他の新年会で会う機会もあり、組合員同士ゆっくり話をするためにも必要ない。

(小島委員)

会費は現在の6,000円をキープして、関連業者をお呼びして盛り上げたほうが良いように感じる。

(羽生委員)

「組合員の集い」は積極的にやったほうが良い。メーカー・ベンダーは呼ぶべきだと思う。環境が大きく変化しているのだから、遠ざけるべきではない。

(長谷川委員)

80%以上の小企業の方々に参加していただくためには、「組合員の集い」のほうが良いように思う。メーカー・ベンダーは、支部の新年会に参加しているので、「組合員の集い」に呼ぶ必要はないが、講演会の内容によっては、メーカー・ベンダーに聞いて欲しい場合もあるだろう。開催時期は固定したほうが、「組合員の集い」の認知の点で良いと思う。

(芝崎委員)

1月、2月に開催すると新年会と混同されるので、ずらしたほうが良い。「組合員の集い」と賛助会員制度の問題は分けて考えたほうが良い。戦う場面と仲良くする場面は、メリハリをつけても良いのではないか。

(有菌副委員長)

過去のアンケートを見ても、9割以上の方が現在の形式に満足されている。今回のアンケートでも同様の評価であれば、今後もこの形式を進めるべきだと思う。千名前後が参加する、あの新年会の催しには行きたくない。講演会の内容を変えたり、パーティー

の趣向を変えながら進める今の形式が良い。

(森永副理事長)

組合員が中心だということが軸であるのは間違いない。印刷会社だけで印刷について考えていくのではなく、メーカー・ベンダーと連携していくことも大切だと思う。

検討を受け、大久保委員長が、「組合員の集い」を評価するという意見が大半であったことから、今後も「組合員の集い」の形式で開催することを当委員会の総意とする。また、開催時期については広報部会で検討を進めたい旨諮り、了承された。

【議題3】賛助会員制度について

1. 導入目的

事務局が、以下導入目的を説明した。

導入目的

印刷産業を取り巻く環境が変化する中で、印刷組合、メーカー・ベンダーがともに印刷産業の発展のために相互理解を深め、連携していくことが重要になってきていることによる。

2. 賛助会員に対する事業について

支部の賛助会員制度について、各委員が以下意見を述べた。

(松村委員)

山之手支部では以前から賛助会員制度があり、新年会や総会等にお呼びしているが、歴史があるので、違和感なく支部員と同じように参加している。行事があれば、協力的な姿勢で対応してくれている。賛助会員という資格があることで、メーカー側も肩肘張らず参加していただけているのではないかと。賛助会員は12社程あり、会費は年間25,000~30,000円くらいで、新年会の参加費は組合員と同額である。

(佐々木委員)

足立支部でも以前から賛助会員制度があり、新年会や納涼会に参加していただいている。お知らせは、支部員と同様に送付している。会費は年間1口1万円で、1口の企業と2口の企業がある。賛助会員は約20社である。

検討を受け、大久保委員長が、各支部の賛助会員制度に配慮しながらも、本部が賛助会員制度を創設することについて諮り、了承された。

3. 会費について

大久保委員長が、機関誌等の広告料との兼ね合いも考え、今後部会を中心に検討を進めたい旨説明した。

4. 全印工連賛助会員制度導入の動き

森永副理事長が、現在全印工連でも検討を進めている。メーカー・ベンダーと向き合っ議論できる場を設けるとい趣旨で検討が始まった。検討の中で、既に賛助会員制度を持っている工組から、全印工連が賛助会員制度を作ること工組の賛助会員が脱退しないような配慮をして欲しいとの意見も上がっているが、全印工連としては大きな視点から印刷業界の今後についてメーカー・ベンダー等と話し合えればと考えている旨説明した。

【その他】

1．組合員台帳調査の件

事務局が、12月15日に締め切り、未提出組合員の就業人員は「前回どおり変更なし」と当該支部長より、了解をいただくこととしたい旨説明し、続いて、大久保委員長が、本来は賦課金徴収規程に未提出の場合は、賦課金を10%加算するという条文もあるので、ご提出いただけるよう促していただきたい旨補足説明した。

2．組合情報の受発信の充実

事務局が、Web版作業交流ガイド2008をホームページに掲載した旨報告した。

3．「東京の印刷」に脱退企業を掲載することの是非について

事務局が、資料No.7の説明を行い、続いて、大久保委員長より、先日開催した加入増強部会において、脱退組合員の情報については知らせる必要があるもので、今後も機関誌に掲載するが、目立たないように掲載することが申し合わされた旨報告し、了承された。

4．今後の日程

第4回 1月27日(火) 15:00～

会議終了後17:30よりMUDセミナーを開催

藤井副委員長が、城南支部で支部員に配布した「年賀状関係見本文例配布について」の説明をした。

以上